

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月31日現在

機関番号：32615

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2011

課題番号：22730143

研究課題名（和文） 世界経済危機後の南アジアの人間の安全保障と国際関係の意義

研究課題名（英文） Human Security in South Asia after the Global Financial Crisis:  
Implications for International Relations

研究代表者

シャーニー ジョージアンドレア (SHANI, GIORGIANDREA)

国際基督教大学・教養学部・准教授

研究者番号：40569993

研究成果の概要（和文）：本研究により南アジアにおける経済的な成長は人間の安全保障を導くことにはつながらないという結果が得られた。世界経済危機後インドの経済は成長し続けたが、それに伴い食糧費も高騰し、人間の安全が保障されない不安全な状況が続いている。ネパールでの研究よりネパール共産党統一毛沢東主義派においても現在の経済システム以外に選択肢はないとしている。南アジアで不安全状況は今後も続くと考えられる。

研究成果の概要（英文）：

Research carried out as part of this project revealed that there was no necessary correlation in South Asia between economic growth and human security. Although India's economy continued to grow after the financial crisis, food prices have continued to increase leading to continuing human insecurity. Research carried out in Nepal shows that even the governing Communist Party (Maoist) in Nepal accepts that there is no alternative to the current economic system. Therefore, human insecurity is likely to continue in South Asia.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：人間安全保障、国際関係理論、南アジア、国際開発

## 1. 研究開始当初の背景

研究開始当初は世界経済危機の影響により人間の安全保障に不安な要因が与えられていた。南アジアは経済的に急激に成長している一方で経済格差が大きく、貧困の問題が存在している。そのためにこの研究では南アジアにおける人間の安全保障に焦点をあて

ようとした。

世界経済危機は新自由主義の成長について基本的な疑問をなげかけた。ネオリベラルグローバル化は経済的、政治的、社会的、文化的世界の展望を変化させ、特にインドや中国において多くの人々から貧困を取

りさった。しかしながらネオリベラルグローバリゼーションは現存している経済的、社会的、文化的な不平等、特に地域的、階級、カースト、ジェンダーなどにおける不平等を強化したということが指摘されている。UNDPは1960年以来世界的な収入格差は広がったと推定している。このことは南アジアにおいて顕著であり、経済改革が導入されて以来、数十年も経済成長が維持されているにもかかわらず、およそ5億人以上の人々の収入は減少している。

世界経済危機以前、南アジアに住む人々の四分の一から半分程度は一日に1.25ドルの収入で暮らしていた(UNDP 2009: 177-8)。そのためその地域は最貧困地帯となっていた。それではすでに貿易危機の悪化から深刻に影響を受けていたその地域の住民の人間の安全保障に世界経済危機はどんな影響を与えたのか—そしてそれは民族的・宗教的集団とアルカイダやタリバンなどと密接な関係のある闘争的な集団に対抗する現在も続くテロとの戦いとの関係にどのような影響をもたらしたのか？

## 2. 研究の目的

本研究は世界経済危機が南アジアにおける人間の安全保障と国際関係にもたらした影響について考察することである。とくにアフガニスタンやパキスタンにおいて現在も続く“テロとの戦い”と関連している。この研究は私がこれまでにおこなってきたグローバリゼーション、人間の安全保障、南アジアにおける宗教的ナショナリズムとディアスポラ(少数離散民族)についての研究に基づいており、国際関係理論における“批判的人間の安全保障パラダイム”を発展させることを目指している。研究はまず南アジア、UKにて中心におこなった。

本研究の主な目的は世界経済危機と人間の不・安全保障の関係について明らかにすることである。さらに具体的には下記に記す。

- (1) 地域経済発展における世界経済危機影響について分析する。
- (2) 地域的民族、宗教、ジェンダー、階級や階級不平等、社会階層化のパターンに与えた影響について考察する。
- (3) 最も大切なことは地域の人々の安全保障(欠乏と恐怖からの自由)における世界経済危機の影響について考察することを

試みることである。

## 3. 研究の方法

- (1) 国内外における資料収集や文献研究により理論の構築をすすめる。
- (2) 南アジアにおけるインタビュー。United Nations Office of the High Commissioner for Human Rights (UNOHCHR) 東南アジア代表へのインタビュー。
- (3) 本研究でまとめたものを出版や国際学会等で発表する。

## 4. 研究成果

本研究結果の概略は以下の通りである。世界経済危機の始まりから、南アジアでは一定の経済成長にもかかわらず、人間の不安全保障は増加した。インドにおける配給制度の廃止により食糧生産は維持されているにも関わらず食糧の安全はゆらいでいる。

これは食糧のインフレをもたらした経済危機により悪化した。南アジアのほぼすべての国でアフリカと同じかそれ以上の低栄養状態が危険なレベルに達している。南アジアの大部分で食糧の安全はもっとも緊急の関心である。南アジアは世界の栄養不足の人々の39.1%と、最貧困層の43.3%を占めている。経済危機以来、インド、パキスタン、バングラデシュでは飢餓の増加、栄養不足や貧困の増加に直面している。

国	HDI Rank	Pop. Below \$1.25 / day	Undernourished population (% of population)	GDP/capita
ス	99	5.6 (2007)	21	4,886
印	119	21.6	22	3,337
パ	125	22.59	23	2,678
ネ	138	24.1 (2007)	16	1,201

(Source: United Nations Development Programme (2010) 'The Real Wealth of Nations: Pathways to Human Development', Human Development Report 2010: 20<sup>th</sup> Anniversary Edition, New York: Oxford University Press.)

ス=スリランカ  
印=インド

パ=パキスタン  
ネ=ネパール

ネオリベラルグローバリゼーションは南アジアの貧困層や女性、ダリット（不可触民）と民族・宗教的少数派の人々を犠牲にして、支配的な階層や、カーストの人々を富ませることに成功した。世界経済危機の社会的な代価は貧困のため最も恵まれない層にいる人々に不相応に負担を強いることになった。

研究の成果は Religion, Identity and Human Security というタイトルで Routledge 出版社から出版される予定である（2013）。研究結果は国際学会等で発表した。

<平成22年度>

本研究では主に理論的研究を中心としていたため、人間の安全保障に関する資料収集（資料収集はイギリスの British library にて中心に行った）や研究会等によりまとめた研究の成果を今年3月に Montreal で行われた ISA 学会（国際関係学会）で発表した。

（平成23年3月16日～19日パネル内容：1 批判的人間安全保障研究について2 宗教と国際関係）また著書 書名「Securitizing “Bare Life” : Critical Perspectives on Human Security Discourse」（出版社 Routledge.）にて執筆。

論文としては2010年6月に雑誌 International Political Sociology にて「Foucault と国際関係理論」について発表をおこなった。また12月に雑誌 Sikh Formations で「The Memorialization of Ghallughara: Trauma, Nation and Diaspora」を出版（査読有）。また3月23日から29日まで南アジア（ネパール）にて人間の安全保障研究のための資料収集と政治家とのインタビューを下記の人物に行った（ネパールの現首相を含む）。

- Dr Babu Ram BHATRAI 共産党統一毛沢東主義派指導者、現ネパール首相。 H23.3.27
- Dinanath SHARMA 共産党統一毛沢東主義派のスポークスマン H23.3.24
- Netra Bikram CHAND 'Biplab' 共産党統一毛沢東主義派 H23.3.26
- Pardeep GYAWALI 共産党統一（マルクス・レーニン主義者）政治局 H23.3.24
- Gauri PRADHAN ネパール国立人権委員会 (NHRC) H23.3.27

<平成23年度>

研究は南アジア（インド、タイ、スリランカ）を中心におこない、研究結果は国際学会や、招待講演等で発表した。さらに研究の成果は Religion, Identity and Human Security というタイトルの著書で来年度出版するための契約を Routledge 出版社と結んだ。

（‘Identity-Politics in the Global Age’ という章はすでに Anthony ELLIOT 編集による The Routledge Handbook of Identity Studies の本のなかで出版済み）

人間の安全保障に関する資料収集（資料収集はインド、タイのバンコクにある office of the United Nations Office of the High Commissioner for Human Rights (UNOHCR) スリランカにて中心に行った）や研究会等によりまとめた研究の成果をインドの O.P. Jindall Global University の招待講演と USA、サンディエゴで行われた国際学学会（ISA）のグローバル開発のセクション working group で発表しさらに、コーディネイトした。

また本研究について招待講演にて UK の著名な国際政治の学部である、Department of International Politics, University of Aberystwyth と Department of International Relations, London School of Economics and Political Science で発表した。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計4件）

- ① Giorgio SHANI, Exorcizing the Spectres of Colonialism Contemporary Sikhism and Postcolonial Thought, Religions of South Asia, 査読有、4,2 巻、2011、pp. 165-173
- ② Giorgio SHANI, The memorialization of ghallughara: Trauma, Nation and Diaspora, Sikh Formations: Religion, Culture, Theory, 査読有、6(2) 巻、2010、pp. 177-192
- ③ Giorgio SHANI, De-Colonizing Foucault, International Political Sociology, 査読有、4 (2) 巻、2010、211-214
- ④ Giorgio SHANI, David CHANDLER, Assessing the Impact of Foucault on International Relations, International Political Sociology, 査読有、4 (2)、2010、pp. 197-200

〔学会発表〕計（10）件

- ① Giorgio SHANI, The Afterlives of Neoliberalism: Development, Postdevelopment and International Relations, International Studies Association (国際関係学会) Working Group, 2012年3月31日、San Diego, C. A. USA
- ② Giorgio SHANI, The Promise of a Postwestern IR: Religion, Identity and Human Security, Theorizing Asia: The Development of Post-Western IR Theory, 2012年2月24日、O. P. Jindall Global University, India
- ③ Giorgio SHANI, Decolonizing Biopolitics: Religion, Poststructuralism, and Postwestern IR, British International Studies Association (BISA) Workshop 'Postcoloniality and the Limits of Poststructural International Relations', 2011年11月18日、University of Aberdeen, UK
- ④ Giorgio SHANI, De-Secularizing Human Security, International Relations Department Seminar, London School of Economics and Political Science, UK, 2011年11月15日、The London School of Economics and Political Science (LSE), UK
- ⑤ Giorgio SHANI, A Post-Western IR? Examining the Possibility of an 'Asian' International Relations Theory, Asian Studies Conference Japan (ASCJ), 2011年6月26日、International Christian University
- ⑥ Giorgio SHANI, De-secularizing "Bare Life": Religion, identity and critical human security, Forum on Religion, London School of Economics and Political Science, UK, 2011年5月4日、The London School of Economics and Political Science (LSE), UK
- ⑦ Giorgio SHANI, De-Secularizing the 'Human': Religion, Identity and Critical Human Security, Critical and Cultural Politics Research Group and the Security Research Group, Department of International Politics, 2011年5月2日、Aberystwyth University, UK
- ⑧ Giorgio SHANI, Human In/Security in South Asia After the Financial Crisis: Critical Perspectives, Tribhuvan University, 2011年3月25日、Kathmandu, Nepal
- ⑨ Giorgio SHANI, Interrogating the Disciplinary Boundaries of

International Relations: Religion Political Authority and Global Governance, International Studies Association (国際関係学会) Annual Convention, 2011年3月16日、Montreal, Canada

- ⑩ Giorgio SHANI, Emancipating Zoe: Critical Human Security and the De/Securitization of the Veil in France and Turkey, International Studies Association (国際関係学会) Annual Convention, 2011年3月16日、Montreal, Canada

[図 書] 計(2)件

- ① Giorgio SHANI, 出版社名 Routledge, 'Identity-Politics in the Global Age' in Anthony ELLIOT (ed.), 書名 The Routledge Handbook of Identity Studies, 2011, pp. 380-397
- ② Giorgio SHANI (共著), 出版社 Routledge, 書名 'Securitizing "Bare Life": Critical Perspectives on Human Security Discourse', 2010, pp. 56-69

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

ホームページ等

<http://www.isanet.org/meetings/2012-working-group-global-development.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

シャーニージョージアンドレア

(SHANI, GIORGIANDREA)

研究者番号: 40569993

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし